

立命館大学 学外研究成果報告書

2009年 11 月 16 日

立命館大学長 殿

所属： 経済学部 職名： 教授 氏名： 藤岡 惇 印

このたび学外研究を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。

		所属長承認		印
研究課題	米国の軍産複合体の現状と持続可能な社会づくりへの転換の方策			
申請区分	<input type="checkbox"/> 学部研究科人数・予算枠内 <input type="checkbox"/> 学外資金・セメスターごと人数枠内 <input type="checkbox"/> 役職者別枠 <input type="checkbox"/> 助教			
滞在先国名 (複数ある場合は 全て記入してく ださい)			<input type="checkbox"/> 国外のみ <input checked="" type="checkbox"/> 国内のみ <input type="checkbox"/> 国内__ヵ月、国外__ヵ月	
研究期間	2009年 4月1日 ~ 2009年 9月27日 (6ヵ月間)			
研究日程 概要	期 間		滞在城市名	研究機関名
	①	年 月 ~ 年 月		
	②	年 月 ~ 年 月		
	③	年 月 ~ 年 月		
	④	年 月 ~ 年 月		
	⑤	年 月 ~ 年 月		
	⑥	年 月 ~ 年 月		
1. 実施状況 ：研究方法や受入研究機関との関係なども含め、上記研究日程概要に即して実施した事柄を具体的に記述してください。				
<p>今回の学外研究には3つの目標がありました。第1に、ミサイル防衛をはじめとする宇宙軍拡の現状を正確に掴み、その成果を研究書として、まとめて出版すること。第2に、『平和の経済学』という領域の研究を深め、これまでの研究と教育の成果をもう一つの本にまとめること。第3に、サブプライムローン危機から世界に広がった現下の金融恐慌の原因と対策を探究することでした。</p> <p>第1の目標を実現するために、本年の4月14日から20日まで韓国のソウルにおもむき、隣国におけるミサイル防衛の最新の動きを調査し、研究者と交流してきました。</p> <p>第2の目標を実現するために、本年5月7日から6月3日まで、欧州のチェコ共和国とフランス、英国に出張しました。チェコでは、プラハを拠点に、米国のミサイル防衛基地の受け入れをめぐる論争を取材し、英国では、ロンドンで資料収集をはかるとともに、デボンシャーのトットネスのシューマッハー・カレッジを訪れ、ユニークな持続可能な社会づくりの研究実践を取材し、『平和の経済学』を完成させるうえでの不可欠の資料を集めることができました。</p> <p>第3の目標に関しては、進行中の事態でもあり、膨大な量の情報を集め、整理し、体系的に理解する作業を展開することができました。この作業は、もっぱら国内で行いました。</p>				

2. 成果の概要： 今回の研究成果の概要を上記の実施状況に則して具体的に記入してください。 [2500～3000字程度]

今回の学外研究の最大の目標は、『宇宙を舞台にした軍拡競争と米国経済のゆくえ』（仮題）という研究書をまとめることでした。すでに出版社（合同出版）が決まっており、書名は『宇宙を「戦争の海」にしてもよいの』に決定していることもあり、与えられた時間を活かして、調査と執筆活動をおこないました。4月中旬には1週間ほど韓国におもむき、隣国におけるミサイル防衛の動きを調査し、研究者と交流しました。またこれまで集めていた文献を相当数読むことができ、本の原稿のほぼ95%を完成させることができました。

ただし、オバマ政権の成立と鳩山政権の成立とがあわさった結果、宇宙政策が流動化しており、最新の情報把握という新しい課題が生まれ、現在、修正と補充の作業に取り組んでいます。この作業も、年内12月中には終え、年度内3月までには、書物を上梓したいと考えています。

「平和の経済学」という領域の研究を深め、これまでの研究と教育の成果をもう一つの本にまとめるというのが、今回の学外研究のもう一つの課題でした。そのために、本年5月7日から6月3日まで、欧州のチェコ共和国とフランス、英国に出張しました。チェコでは、プラハを拠点に、米国のミサイル防衛基地の受け入れをめぐる論争を取材し、英国では、ロンドンで資料収集をはかるとともに、デボンシャーのトットネスのシューマッハーカレッジを訪れ、ユニークな持続可能な社会づくりの研究実践を取材しました。また近くのハートランドの地にシューマッハー・カレッジの研究責任者で、『リサーチェンス』誌の編集長でもあるサティシュ・クマールさんを訪問し、交流しました。また今年11月にサティシュ・クマールさんを関西の地にお呼びする相談も行いました。トットネスの地は、地域社会から低炭素の循環型社会づくりをめざす「トランジシュンタウン」運動の発祥の地でもあり、貴重な文献を集めることができました。『平和の経済学』の執筆のほうも、すでに出版社も決まっていることもあり、2010年いっぱいには、めどをつけたいと考えています。

「現下の米国発の経済恐慌の原因としくみ、対策」の探求という課題に関しては、いくつかの予備的な調査報告も行いましたし、時論風のエッセイも出しました。本年11月23日に開催される経済理論学会の分科会で発表を予定しています。

いずれの領域も、私にとっては、これまで相当の研究蓄積を重ねてきたところであり、これまでの成果を集大成させ、研究書として結実させるうえでの重要な手掛かりをうることができました。立命館大学においてより効果的な経済教育や教養教育を実践していくうえでも、本年度に学外研究を行えたことの意義は大きかったと考えています。

氏名

藤岡 惇

3. 研究成果の公表：今回の研究成果公表の状況と予定を具体的に記入してください。

既 発 表

テーマ	発表形態	出版社/雑誌 巻号/学会名等	刊行/発表年月日
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		

執 筆 中 ・ 発 表 予 定

テーマ	発表形態	出版社/雑誌 巻号/学会名等	刊行/発表予定年
『宇宙を「戦争の海」にしてもよいの——ミサイル防衛が招く世界』	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表	合同出版	2010年3月
『平和の経済学』	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表	法律文化社	2010年12月
「米国発の現下の経済危機を考える」	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> 学会発表	経済理論学会第57回大会	2009年11月
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		
	<input type="checkbox"/> 著書 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> 学会発表		

構 想 計 画 中

氏名

藤岡 惇

提出期限：帰着後2ヶ月以内
 提出先： 各リサーチオフィス

★ 本書式は、研究部ホームページにて公開します。

RO 受付